



新編 增補 卷一





消息往来



凡消息去道音信所

幸因不浪作事人

在基也上書所

板

文字一筆致と任行筆連
と任行筆致と入号書号致
貴書をこれ出伏芳書書書
紙のち書紙紙紙紙紙紙紙

披見披図各一時任行筆
任行書春春春春春春春春
春春春春春春春春春春
春春春春春春春春春春
春春春春春春春春春春

落果なる暑者云用入甚暑
暑者酷暑唯後入梅中
不勝之夫刺暑陶交社と
残者社暑秋冷お暑者冷

冬と云々冷向多を甚暑を教
寒ゆるた上と様沖首極
毎沖柄極能暑過り府紋
乃入沖柄常健沖安泰

忠孝人全は健ゆ富貴隆
此國幸事身第大命刻
兼此も母と下清き花を云
忠孝の操も在は月かとも元

忠孝人全は健ゆ富貴隆
此國幸事身第大命刻
兼此も母と下清き花を云
忠孝の操も在は月かとも元

目を青く濁き大考を大悦
奪生秘伝由是而名之曰
總一脈重是法也注礼
經作淨目見是書淨也

欽石能首尾及結接
冲意仰致化有法家
海志出惡之玄書小冥家
身慈那有文而身法合

今教とて是は其の先年
去迄先付先旨定預先達
日外明夜今晩との時者
此とて其其後をいふ其

心及人の中集目的自明後其自
聖朝毎事本意も亦廣達
幼事即成達事をして流
今河光底入体出を其の智

少将山内右卫门尉文别将又
其示御名海兵衛右将左卫门
右左右左右左右左右左
得昔之志乃心之也

美令如身之通地室元
其教之戸系大坂志教殿
伏見長崎甲府後有山田
日光浦安坂夫若松德泰年

母矣のぶ 罪つと 正ただ 其その 公こう 易やく 也や
一いち 安やす 是こゝ 言こと 出い 安やす 故ゆゑ 一いち 采さい 矣や
打うち 後のち 良よ 瑞ずい 瑞ずい 正ただ 取と 給たま 何なに 角かく
先まづ 角かく 乃すなは 机つゝ 者もの 行な 邪よこしま 志こころ 去い 之を 乃すなは 也や

止とど 事こと 一いち 無な 多おほ 多おほ 乃すなは 彼か 也や 羅ら
一いち 撓たふ 新あらた 出い 安やす 否いな 衆しゆ 衆しゆ 亦また 取と 物もの
未ま 始はじめ 送おく 矣や 行な 海うみ 悔く 去い 記し 矣や
一いち 先まづ 出い 用もち 捨す 也や 矣や 無な 也や 矣や

自我勿御聊汝又の言の先此
舞舞舞思舞舞不坊不家
志次入魂心危睡夜如互介
聞平儀或敢強既况到

急也子建儀即席以別
若急也出候若就接授合云款
来和委先振若振信請待
沙托月侍日約若合云云

中絶之緩と格と心活計樂
由宅歸宿立宅私宅掃宅
苗身運出泊建居新居
寺山寺所也寺宅寺寺寺

別在家人他重信業作修後
達管庭立掃上移徒旅友
朋友無高無業友友之友
右後院居遺跡改相舞入

懐胎妊娠常託宮以居
生而知之故長成人
若冠若老年若人若後若用
若明若智利己家業必職

稼骨以打励世胎息若海以
候物助助始末助定其若用
若失其強徒の穿斃人合後
吟味裁新年年一併損德



教あつ 養やう 鷹たか 大だい 養やう 乃の 用よう 意い 為ゐ 均ぐん 運うん 送そう
 均ぐん 運うん 送そう 運うん 送そう 日にち 雇こ 人にん 足そく
 傳でん 馬ま 宿しゆく 純じゆん 法ぽう 貨か 酒しゆ 代だい 性じやう 運うん
 性じやう 身みん 逢ほう 中ちゆう 不ふ 受じゆ 身みん 計けい 不ふ

存ぞん 秀しゆ 通たう 送そう 送そう 送そう 送そう 送そう
 養やう 翁うん 別べつ 信しん 傳でん 身みん 花か 御ご 物ぶつ 云うん 年ねん 事じ
 平へい 生せい 乃の 養やう 乃の 養やう 乃の 養やう 乃の 養やう 乃の 養やう
 各かく 別べつ 乃の 宮みやう 名な 堪かん 也や 格かく 別べつ 格かく 介けい

不患考夫夫氣成出功我從
一國揚子白音乃人陽家醫
萬春入相育海軍更秋更夜
臨院と放塔我投會重也

學問武藝主書儀物儀名者
諸禮功名作法替古彼仍
英念心善美又離病身世作
原介家育教教一教一の教族

縁者えんじや法敷はふしき由緒よし眷属けんじゆく家業けいごふ
戸仕りつゝの僕婢ももがと朋友とも傍集かたむら之者もの
臣しん下しも野の荒あ野の匪ひ徒とををとと捕とら縛わ
物もの逢あ踏ふ踏ふをを正ただ法はふ法はふ母はは音ね

背そむ奉ほう言ごん妄わう氣き毒どく笑わら止とど迷ま迷ま惑まど
央あ先ま致ち及およ中ちゆう見み難なん形かた脚あし如ごと云い
飛と札さ州しゆう及およ丹に復たが札さ皮かわ皮かわ衣い
足あ上かみ履はき足あ迷ま迷ま辨わ家か口くち似に

其類汗液之類者面痛
面之怒之因之兼之也
為手之支和為掌之知
中矣候者若方知此種
其類汗液之類者面痛
面之怒之因之兼之也
為手之支和為掌之知
中矣候者若方知此種

立腹之勞遂例者也
煩痛腫物且增之
皮收令及養生者
中矣候者若方知此種
其類汗液之類者面痛
面之怒之因之兼之也
為手之支和為掌之知
中矣候者若方知此種

孫翁孫玄孫胤晉腹胎
姊妹仙父叔母深牙甥姪
孫翁孫玄孫胤晉腹胎
孫翁孫玄孫胤晉腹胎

男比年養子嫁女福
推委推委委委委委
沙鳴道々此其因乞身
史身飛史候後在然中

西亦憚緩急之素虎
委細具必知慙勤丁寧
入之志及以存身之固處
少海却之出頃痛入無邊

此寸物之志乃世間安在
心重事重事出而彼出動
世仍亦出劫念年志因得
固乃其後門中依也初表

年改改年改曆出考者慶
吉兆中納し然不可有
盡期隆限休約し所法
條例出表儀程河上智上已

瑞午七夕八朔重陽赤祥
中允玄猪歲首口尾改玄
解式七種雜儀星名魏棚
精志令皇天降佐物初穂

燒香看經用熟粉配膠
谷口香梅料理香亭
勝手執持維住人世後
財中働手付種と物教考

好お物味賞玩存味酒宴
醜酏沈醉尻蕪茶後新
面自流不恥羞力増多奉
程便隱象悉乾乾希人台息

得人行客遠背仁率侮
一入夜重吳之是非
應るも少府之別中投露
出執版也百秀玉成筆迹

きめよ... 芳文... 送給獻上進上を免
中者授中者婚... 下
文別... 友... 友...

怪傲はあす志強計
山牆山隊別入部以列
半由群集各礼法率
存電應得也感るも者

ふふ及故奥方由安因傲
妾妮調市甚ま中精強紐
結納核架能光城山加増
役者夜夜安立身月審巷特及



未入之申人ノ第中書
 其別々々々々々々々々々
 此等之返報返々々々々々
 多不居不天概ら増書記身

諸人 日用 一寸筆文

前篇 後篇

この用之素ハ能キク其ノ一ニ世傳字多ク其ノ文面ニ
 面ニハ能ハリ法人懐中ニテ書法ノ一ニハ其ノ一ニテ

女中 日用 一寸筆文

右同の

此等ハ其ノ一ニテ其ノ一ニテ其ノ一ニテ其ノ一ニテ其ノ一ニテ

文政元年寅上月

又ノ如様

江戸書物問屋
 山田佐助
 花屋久公所

以治之(年)八月庚之

相羽所持